

「地理探究」 シラバス

学科	普通科	学年	3年	類型	III	組	3・4組	単位数	4
使用教科書	新詳地理探究（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）								
副教材等	新編地理資料（東京法令出版）、サクシード地理（啓隆社） 地理探究ワークブック（愛媛県高教研地歴・公民部会）								

1 学習の到達目標

- ① グローバル化や情報化、少子高齢化など、急激な社会の変化を地理的な視点で捉えながら、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を身に付ける。
 - ② 現代世界における地理的認識を深めながら、地理的技能や地理的見方・考え方を習得する。
 - ③ 主体的に社会の形成に参画する態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	地理的諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。	(1) (2) (6) (7)
思考・判断・表現	地理的諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っているか。	(1) (2) (5) (6) (7)
主体的に学習に取り組む態度	地理的諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めることができているか。	(3) (4) (5) (6) (7)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1) 定期考査 (2) 小テスト	
学習状況の観察	(3) 毎時間の授業への取組 (4) 地理的事象に関する興味・関心	
発表	(5) 調査方法・発表資料及び内容	
課題レポート	(6) 調査方法、表現方法	
ノート	(7) 学習内容の効果的なまとめ	

3 学習の計画

学期	学習内容	学習のねらい	評価項目
一 学 期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題	<ul style="list-style-type: none"> 交通・通信と観光、貿易に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 人口、村落・都市に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 生活文化、民族・宗教に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	(5) (5) (6)
二 学 期	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域 序節 地域の考察方法 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN 諸国 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU 諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オーストラリアとニュージーランド 第3部 現代世界におけるこれから日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1節 将来の国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域とともに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解し、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 持続可能な国土像の探究に関する諸事象を理解し、それらの事象を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	(5) (6) (5) (6)
三 学 期	地理問題演習	これまでの学習成果を確実に定着させるため、問題演習を行い、大学受験に対応する実力を涵養する。	

備考 (1) (2) (3) (4) (7)については、全ての単元において評価項目として用いる。